令和4年度 No.9

駒岡小学校だより

１月号

自らの成長をメタ認知する

校長　岸田 薫

新年あけましておめでとうございます。2023年のはじまりです。それぞれのご家庭では、どのように年末年始を過ごされましたでしょうか。2022年を振り返り、新たな年の抱負を語り合ったご家庭も多いかと思います。この一年が、学校、家庭、地域の全てのみなさまにとって、充実したものとなりますことを、心から願っております。

さて、年明けからの3か月は、あっという間に過ぎると言われます。「一月の『い』は『居ぬ』」、「二月の『に』は『逃げる』」、「三月の『さ』は『去る』」としばしば言われるように、気づけばもう3学期が終わってしまう、といったことも少なくありません。たしかに、授業日数を見ても、１学期の69日、2学期の80日に比して、3学期は52日（6年生は48日）しかありません。しかし、この3か月をどう過ごすかが、大切なのだと思います。

１月は、「一年の計は元旦にあり」というように、明確な目標をもち、それを着実に行える計画を立てたいものです。そのためには、自分に合っていることが重要です。この10年くらいで、教育の場でよく耳にするようになった言葉に「メタ認知」があります。簡単に言うと、「自分の思考や行動を、客観的に認知すること」ですが、これが、よりよく学び、よりよく生きるためには大切だと考えています。自分はどのような考え方や行動をしているのか、何ができるようになり、何が課題なのか、今後どうすればよいのか、といったことを自分自身と向き合って捉えることです。

そのために、駒岡小学校では「振り返り」を大事にしています。一時間や一単元の終わりに、学校行事や学期の終わりに、様々な機会を捉えて振り返りをします。どのようなねらいで学習を進めたのか、どのような力をつけるための学習だったのか、そのねらいやつけたい力に対して自分はどのように取り組んだのか――。単なる学習の感想ではなく、意図的な振り返りを行うことで、メタ認知できる力を高めようとしています。

子どもたちは、それぞれが、それぞれのペースで成長していきます。その成長を自分で実感することが、次の目標を明確にし、新たなステージに進む準備を行うことにつながります。これこそが、この3か月を大切に過ごすということではないかと思います。

お正月の頃は、暦の上での季節の区分では、「雪下出麦（ゆきわたりて　むぎのびる）」と言われます。この冬は大雪となった地域もありましたが、あたり一面の雪の下では、すでに麦が芽吹いています。暖かい春を待ち、厳しい寒さの中で新しい季節に備えているのです。

駒岡小学校でも、すでに一人ひとりの中に育ってきている成長の芽を大切にしながら、新しい年度に備える3か月となるよう、職員一同、力を尽くしてまいります。

2023年も、変わらぬご支援とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。